

下野市男女共同参画プラン市民意識調査結果 (概要版)

平成 24 年 2 月

下 野 市

【目次】

<概要>

（１）調査概要	．．．．． 1
（２）回収状況と属性	．．．．． 1
（３）調査項目	．．．．． 1

<下野市の男女共同参画に関する現状について>

（１）男女共同参画への意識改革	．．．．． 3
（２）人権の尊重と意識改革	．．．．． 7
（３）家庭における男女共同参画	．．．．． 11
（４）仕事における男女共同参画	．．．．． 13
（５）男女とも健康に安心して暮らせる社会	．．．．． 16
（６）男女共同参画社会をつくるために市に望むこと	．．．．． 18

<概要>

(1) 調査概要

・調査対象

18歳以上の下野市民 2,000 人
(男性 1,000 人、女性 1,000 人)

・調査方法

郵送による配布・回収

・調査時期

平成 23 年 9 月

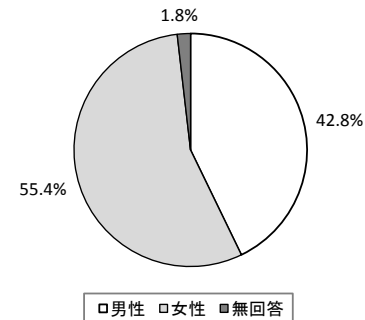
(2) 回収状況と属性

・回収状況

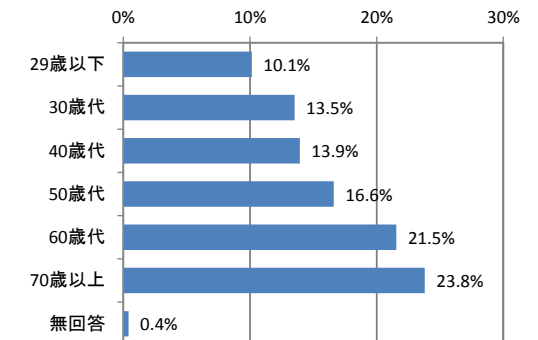
配布数	2,000
回収票数	710
回収率	35.5%

・回答者の属性

性別 (n=710)



年齢 (n=710)



(3) 調査項目

A 属性

B 就労について

問 7 仕事への従事

問 8 女性が仕事を持つことに対する考え方

問 9 女性の能力発揮のための環境づくり

C 生活全般について

問 10 家庭における日常生活の役割

問 11 子どもの育て方についての考え方

問 12 子育てにおける父親と母親の違い

問 13 育児休業・介護休業の取得

問 14 男性、女性ともに家事等に参加するための環境づくり

問 15 経済的にみた現在の暮らしの状況

問 16 生活全般の満足感

D 男女の人権について

- 問 17 ドメスティック・バイオレンス（DV）の認識
- 問 18 ドメスティック・バイオレンスの相談窓口の認識
- 問 19 ドメスティック・バイオレンスの経験
- 問 20 配偶者等からのドメスティック・バイオレンスの相談状況
- 問 21 配偶者等からのドメスティック・バイオレンスを相談しない理由
- 問 22 ドメスティック・バイオレンスの相談先
- 問 23 配偶者等からのドメスティック・バイオレンスの相談後の解決
- 問 24 配偶者等からのドメスティック・バイオレンスが解決しない理由
- 問 25 ドメスティック・バイオレンス防止のための取り組み

E 男女共同参画に対する意識

- 問 26 「夫は働き、妻は家庭」という考え方に対する考え
- 問 27 男女共同参画に関わる言葉等の認知度
- 問 28 男女の地位平等

F 施設入所者(行政)に要望する施策

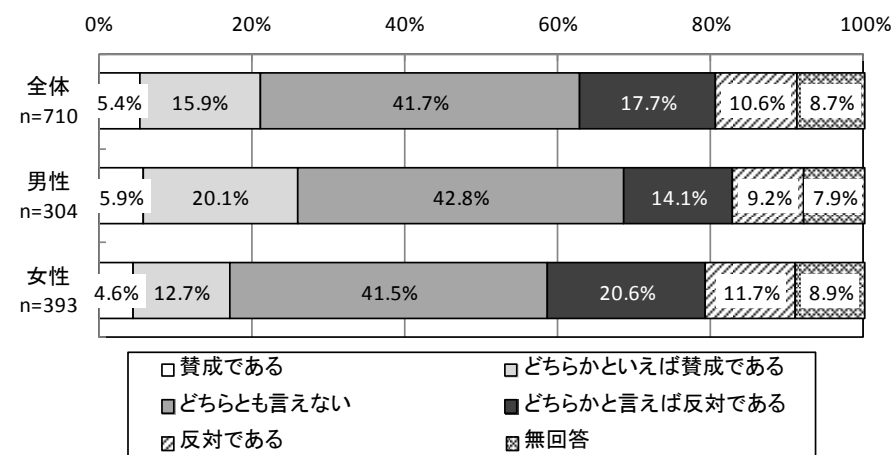
- 問 29 男女共同参画推進事業の認知度
- 問 30 男女共同参画事業で参加したいもの
- 問 31 市に相談したいこと
- 問 32 男女共同参画社会形成のため市(行政)のすべきこと

G 自由回答

<下野市の男女共同参画に関する現状について>

(1) 男女共同参画への意識改革

■「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」(H23 調査)



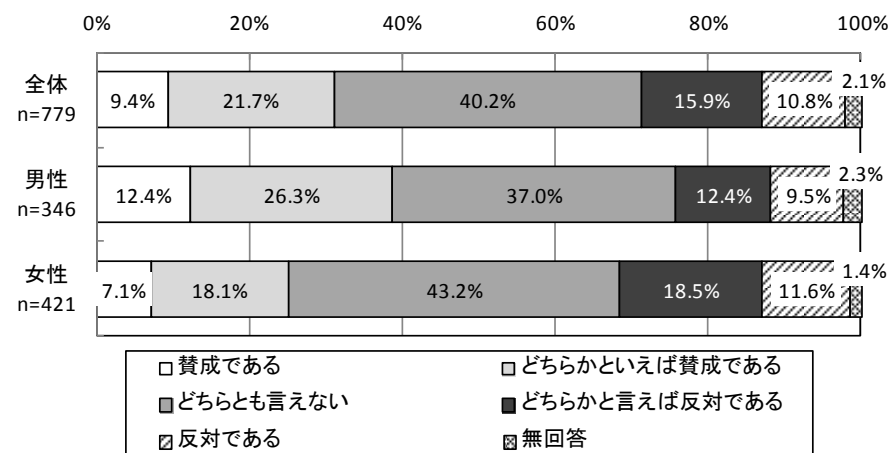
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」に対し、「賛成」は男性に多い

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」の設問について、全体では、賛成の割合が 21.3%に対し、反対の割合が 28.3%となっており、反対の意見が 7.0 ポイント上回っている。男女別にみると、男性では賛成が 26.0%に対し反対が 23.3%、女性では賛成が 17.3%に対し反対が 32.3%と、男女によって賛否が異なっている。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という性別上の固定概念をもっているのは男性の方が 8.7 ポイント上回り、逆にこの考え方に反対という意見は女性の方が 9.0 ポイント上回っている。

全体では反対の割合が上回り、性別上の固定概念は薄れつつあるものの、男女間で意識の違いがある結果となった。

■前回調査 (H19 調査)

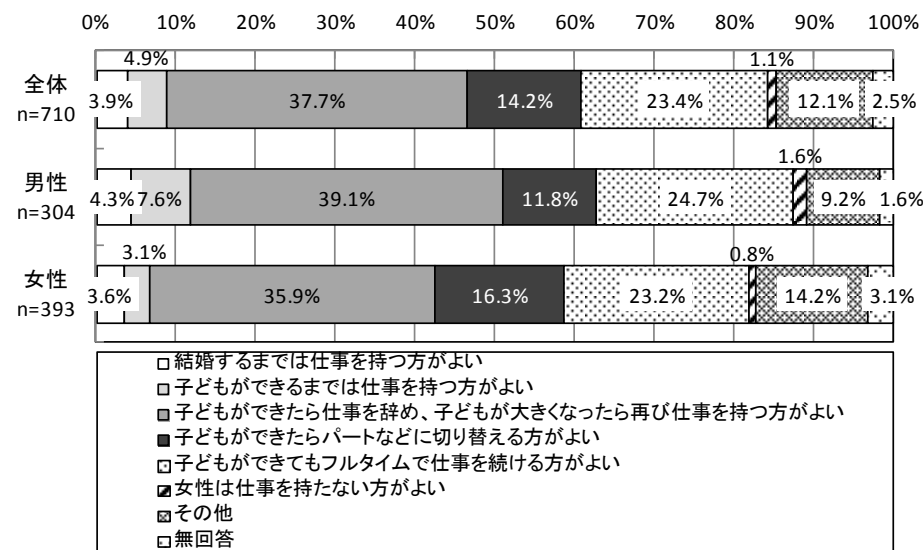


前回調査では「賛成」が上回り、今回調査は「反対」が上回る

前回調査では、全体では、賛成の割合が 31.1%に対し、反対の割合が 26.7%であり、賛成の意見が上回っている。逆に、今回調査では反対の割合が上回っている。男女別では、前回調査、今回調査とも同様に男女によって賛否が異なっているが、賛成の割合は前回調査に比べ今回調査の方が低くなっている。

男女ともに、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」といった固定概念が前回に比べ薄れてきている傾向がみられる。

■「女性が仕事を持つことについての考え方」(H23 調査)

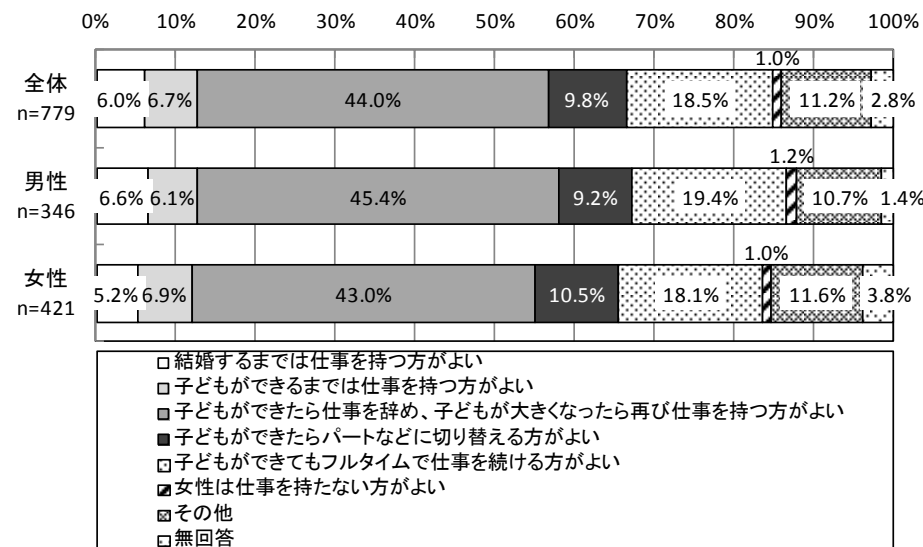


「女性が仕事を持つこと」に対し、「子どもができたら仕事を辞め、子どもが大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」の割合が高い

「女性が仕事を持つことについての考え方」について、全体では「子どもができたら仕事を辞め、子どもが大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」の割合が37.7%と最も高くなっている。男女別にみると、「子どもができた時から子どもが小さい時までは仕事を一時辞める」という考えと、「子どもができて仕事も継続する」という考えにおいて男女の若干の差異がみられた。

また、「女性は仕事を持たない方がよい」という考えは、男女とも全体的に低くなっている。

■前回調査 (H19 調査)

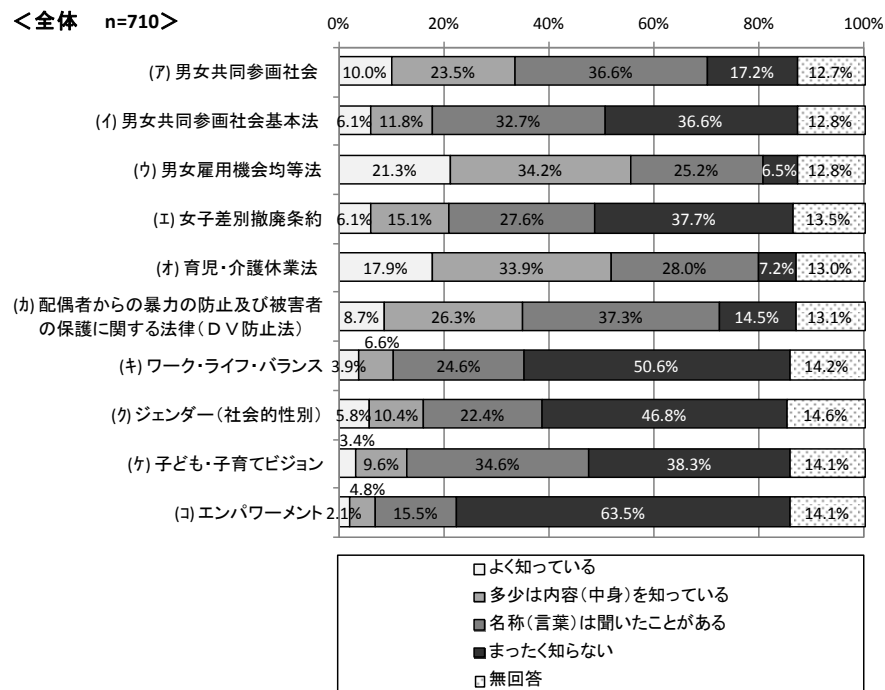


子どもができて仕事も続けたいと考える女性が増加している

男女別にみると、男性においては、「子どもができた時から子どもが小さい時までは仕事を一時辞める」という考えが高く、前回及び今回とも同様の傾向となっているが、女性においては、今回調査では、「子どもができて仕事も継続する」という考えが「子どもができた時から子どもが小さい時までは仕事を一時辞める」という考えを上回り逆転している。

子どもができて仕事も続けたいと考える女性が増加している。

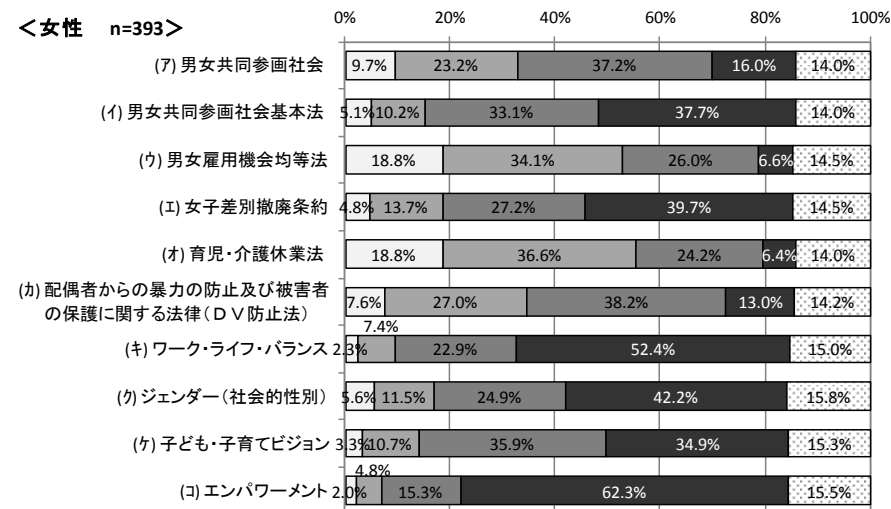
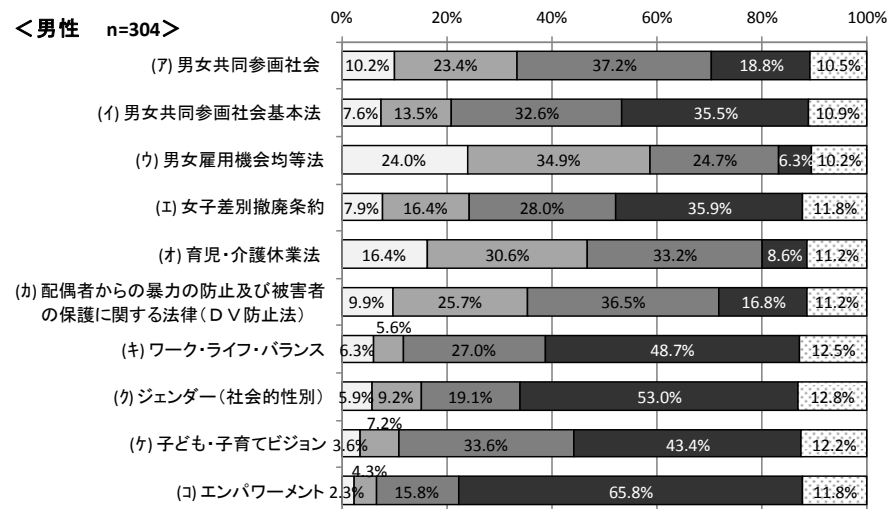
■「男女共同参画に関する言葉の認知度」(H23 調査)



男女共同参画に関する言葉の認知度は男性のほうがやや高い

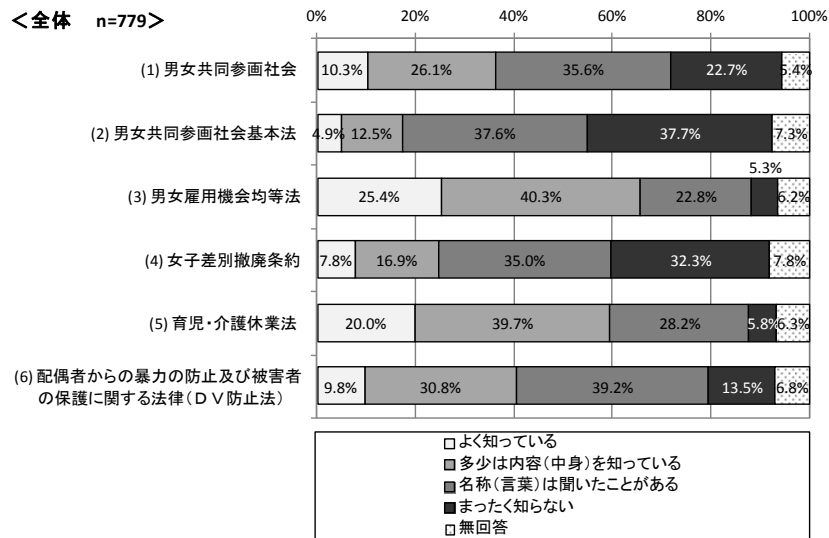
「男女共同参画に関する言葉の認知度」について、全体では、「男女雇用機会均等法」「育児・介護休業法」の認知度がいずれも5割を超え高くなっている。男女別にみると、男性において「男女共同参画基本法」「男女雇用機会均等法」「女子差別撤廃条約」の認知度が女性を上回り、女性においては、「育児・介護休業法」「ジェンダー(社会的性別)」「子ども・子育てビジョン」の認知度が男性を上回っている。また、「ワーク・ライフ・バランス」「ジェンダー(社会的性別)」「子ども・子育てビジョン」「エンパワーメント」の言葉の認知度は全体的に低い。

男性においては、各種法制度の認知度が高く、女性においては家庭や生活に直結する言葉の認知度は高いが、各種法制度の認知度は低い結果となった。



■前回調査（H19 調査）

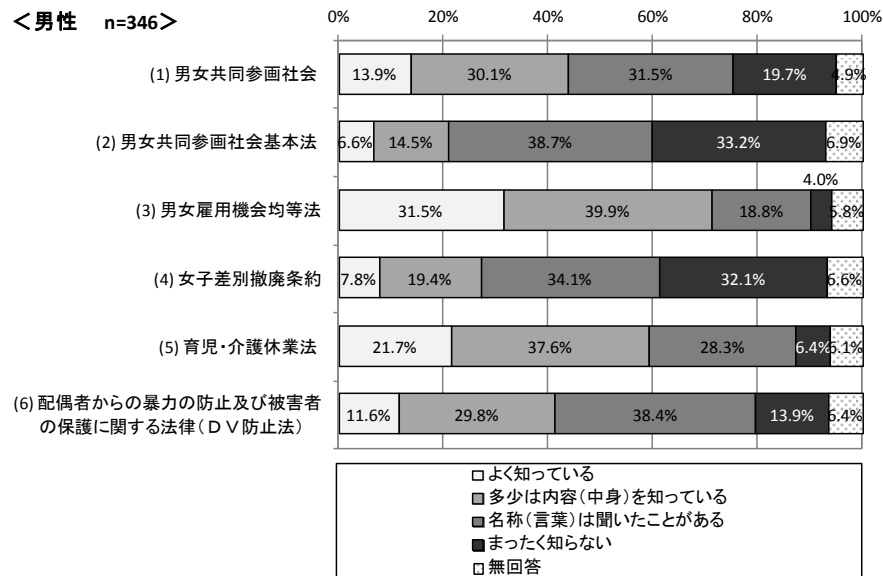
＜全体 n=779＞



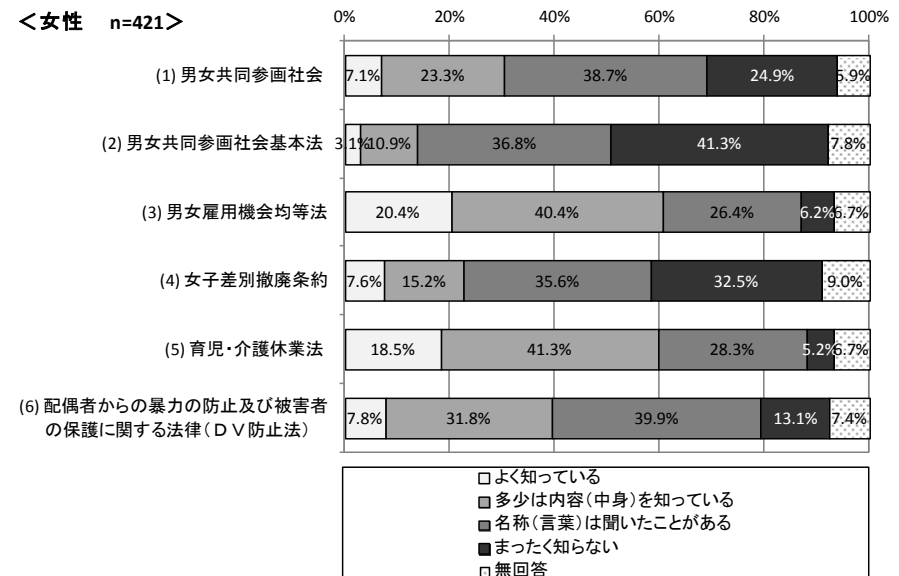
今回調査では男女とも言葉の認知度はやや下がる

「男女共同参画に関する言葉の認知度」について、前回調査に比べ今回調査が下回ったのを見ると、男性においては、「男女共同参画社会」「男女雇用機会均等法」「育児・介護休業法」が挙げられ、女性においては、「男女雇用機会均等法」「育児・介護休業法」「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)」が挙げられる。

＜男性 n=346＞

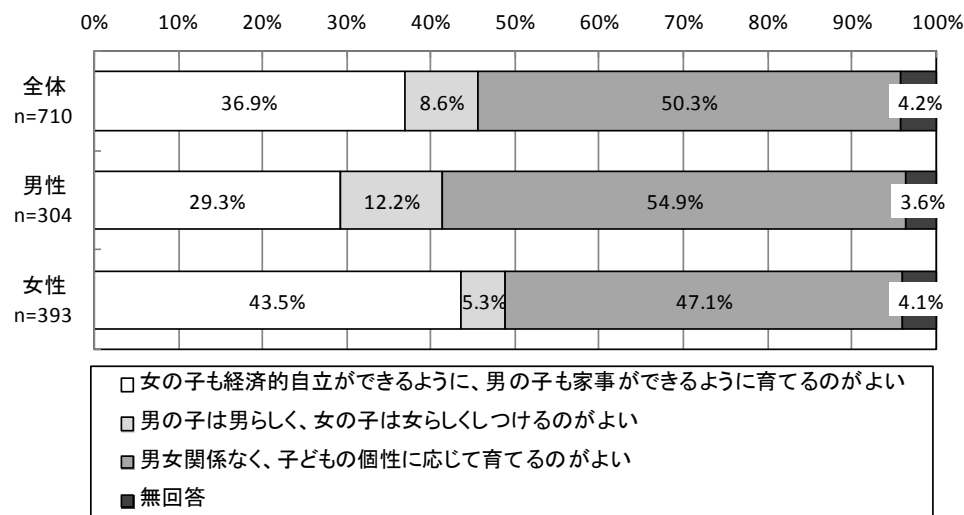


＜女性 n=421＞

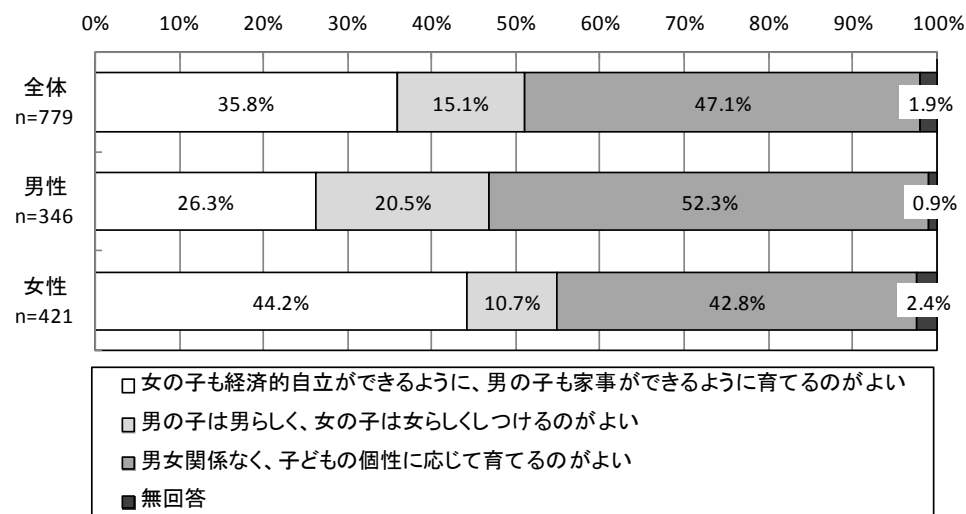


(2) 人権の尊重と意識改革

■「家庭における子育ての考え方」(H23 調査)



■前回調査 (H19 調査)



家庭における子育ての考え方は、子どもの個性に応じ育てる考え方が多い

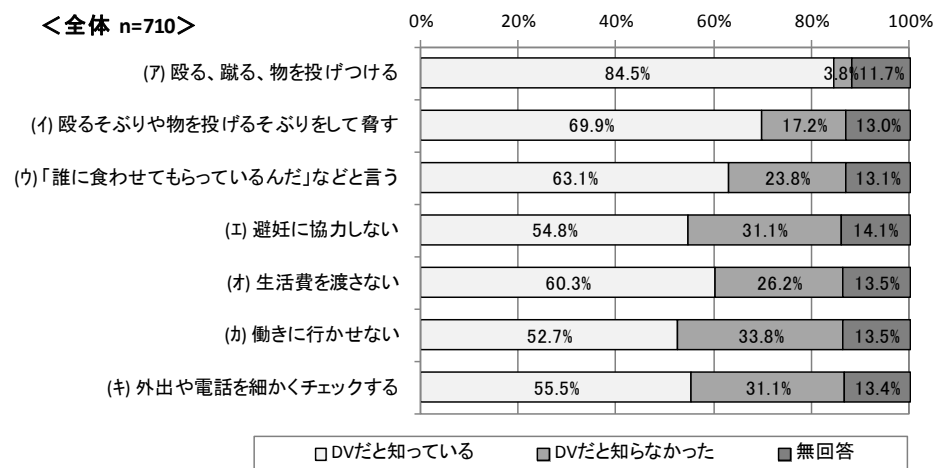
「家庭における子育ての考え方」について、全体では、「男女関係なく、子どもの個性に応じて育てるのがよい」の割合が 50.3%と最も高くなっている。男女別にみると、「女の子も経済的自立ができるように、男の子も家事ができるように育てるのがよい」については、男性よりも女性の割合が 14.2 ポイント高く、「男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」については、女性よりも男性の割合が 6.9 ポイント高くなっている。

男女により子育ての考え方に若干の差異が生じたが、子どもの個性に応じて育てるのがよいという視点では、男性、女性に関わらず共通の願いであると考えられる。

今回調査は前回調査と同様の傾向

男女の「家庭における子育ての考え方」は、「男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」の割合が、男女ともに前回調査に比べ今回調査では低くなったが、全体的な傾向は前回と同様となった。

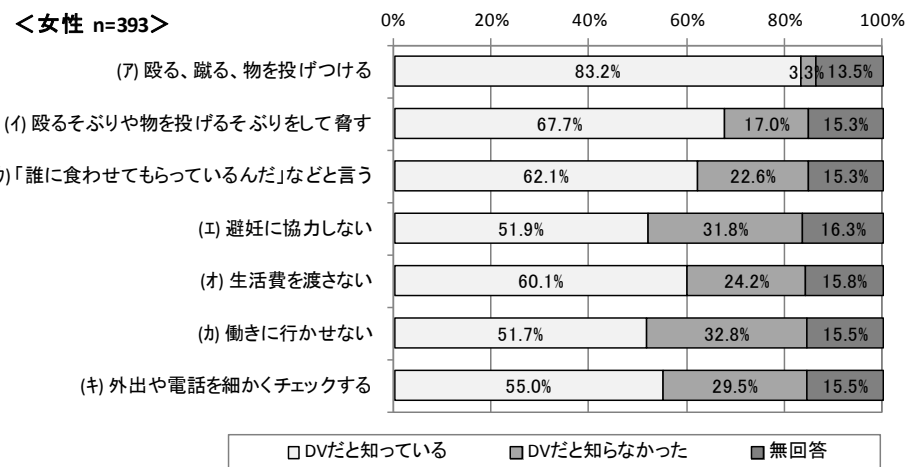
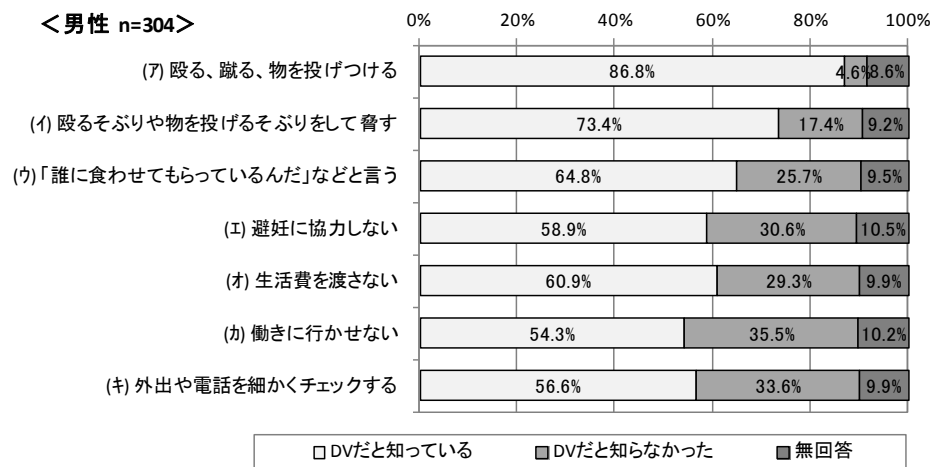
■「ドメスティック・バイオレンスの認知度」(H23 調査)



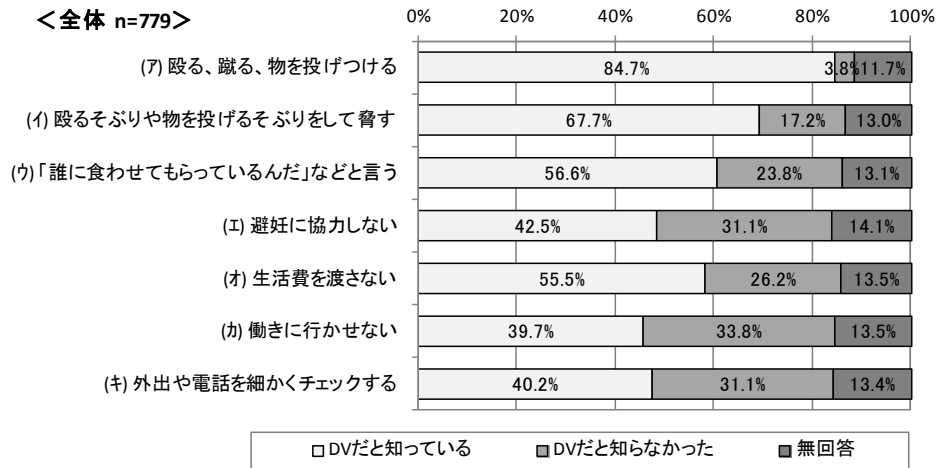
ドメスティック・バイオレンスの認知度は男女とも過半数を超え高い

「ドメスティック・バイオレンスの認知度」について、全体では、「殴る、蹴る、物を投げつける」の身体的暴力が84.5%と最も高く、他の項目においてもいずれも過半数を超え高くなっている。男女別にみても、差異はみられず、全体と同様の傾向になっている。

社会的にもドメスティック・バイオレンスの種類が周知され、男女ともに認知度が高い結果となった。

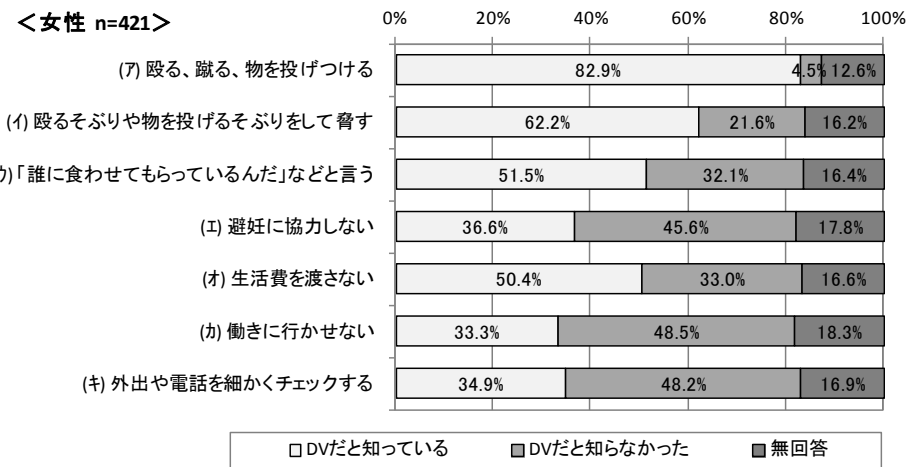
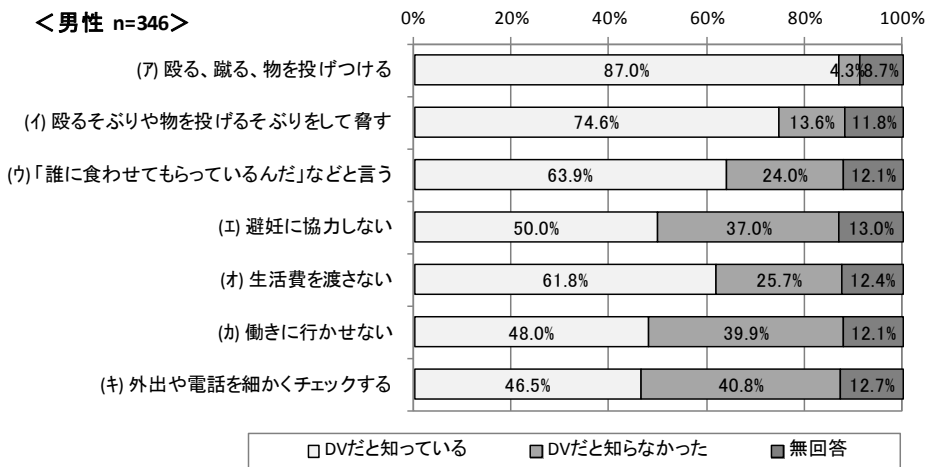


■前回調査（H19 調査）



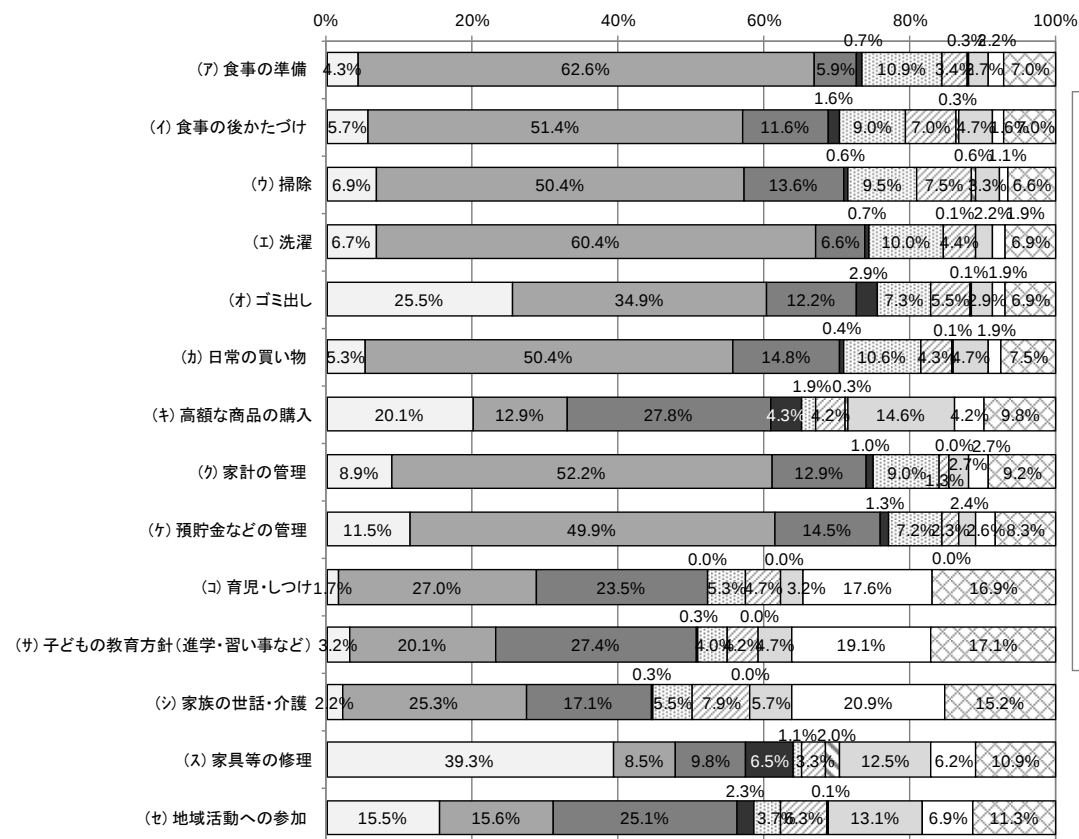
ドメスティック・バイオレンスの種類の認知度は女性において高い

「ドメスティック・バイオレンスの認知度」について、女性においては、前回調査に比べ今回調査では、身体的暴力だけでなく他の項目の認知度が高くなっている。

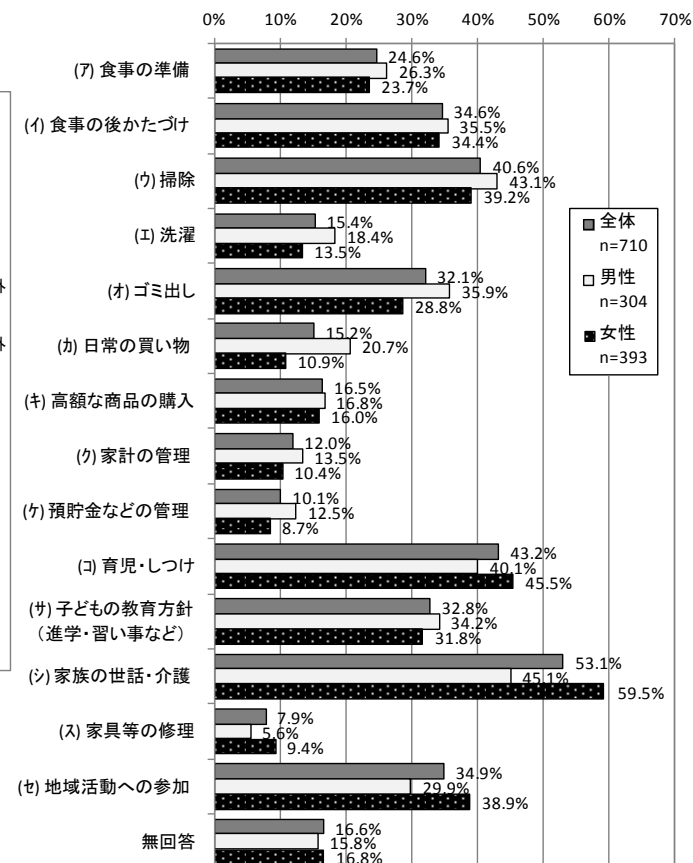


(3) 家庭における男女共同参画

■家事の役割分担 (H23 調査)



■役割分担が望ましい家事 (H23 調査)

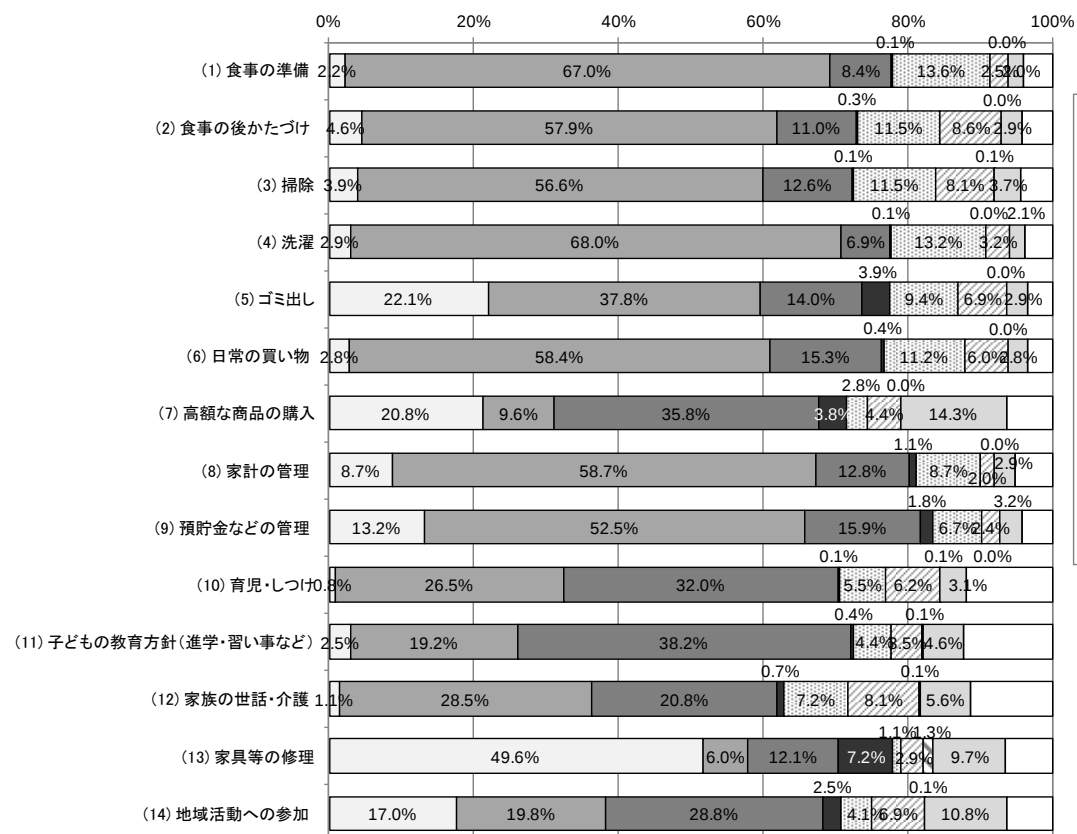


家事の分担は、分担が望ましいと考える「育児・しつけ」で分担が進んでいる

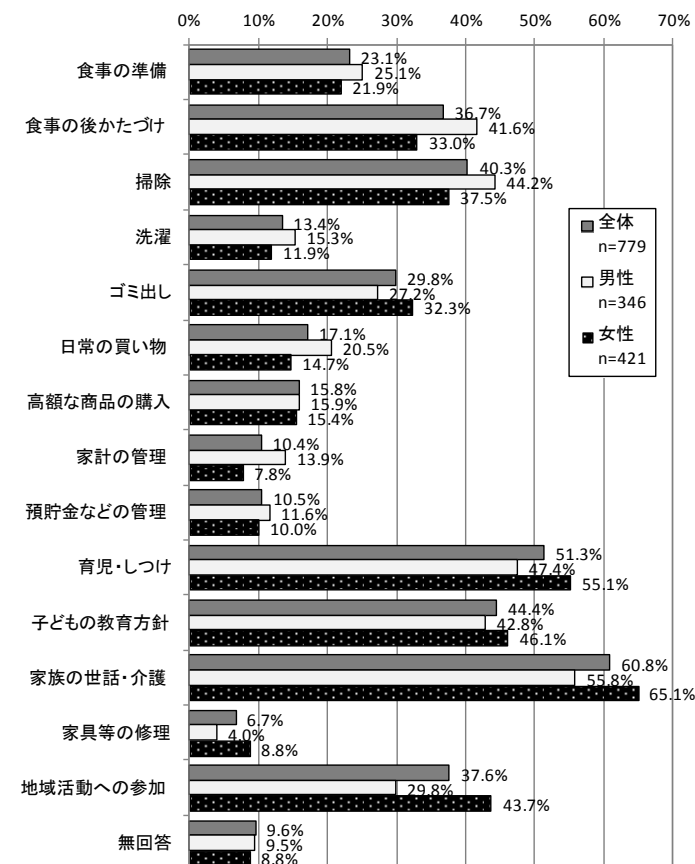
「家事の役割分担」について、配偶者とともに役割分担をしている項目では、「高額な商品の購入」「育児・しつけ」「子どもの教育方針(進学・習い事など)」「地域活動への参加」の割合がいずれも 2 割を超えている。また、「役割分担が望ましい家事」については、「家族の世話・介護」「育児・しつけ」「掃除」が 4 割を超え高い。

分担が望ましいと考える家事は男女とも大きな差異が見られない。現実的には、夫と妻の間において家事の偏りが生じている結果となった。

■前回調査（H19 調査）



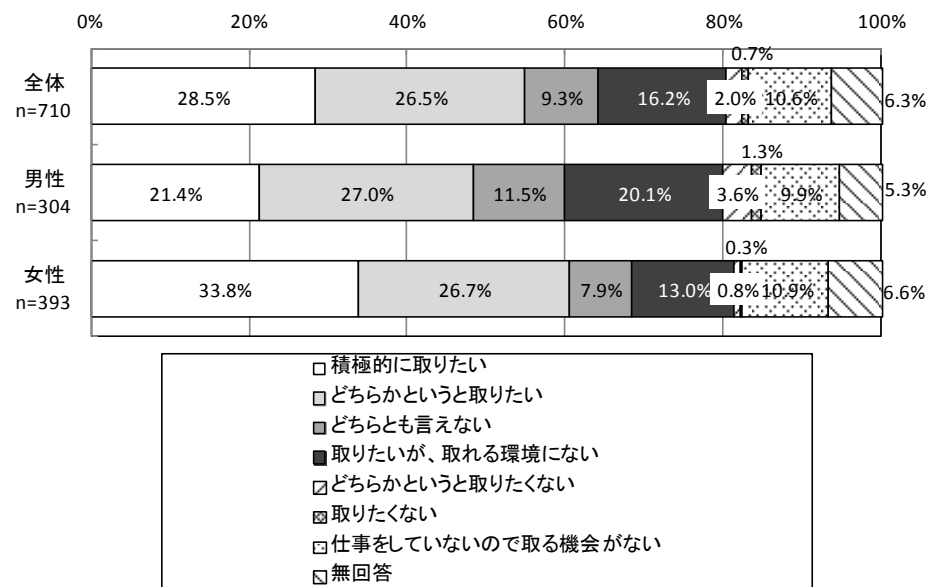
- 主に夫の役割
- 主に妻の役割
- 自分と配偶者で分担
- 主に自分と配偶者以外の家族（男性）の役割
- 主に自分と配偶者以外の家族（女性）の役割
- 家族全員で分担
- 家族以外の人
- 特に決まっていない
- 無回答



今回調査は前回調査と同様の傾向

「家事の役割分担」について、配偶者とともに役割分担をしている割合が高いものは、「高額な商品の購入」「育児・しつけ」「子どもの教育方針（進学・習い事など）」「地域活動への参加」等、前回調査及び今回調査でほぼ同様の傾向となっているが、各項目別にみると前回調査に比べ今回調査では、その割合が低くなっている。また、「役割分担が望ましい家事」についても同様のことがいえる。

■「育児・介護休業の取得意向」(H23 調査)

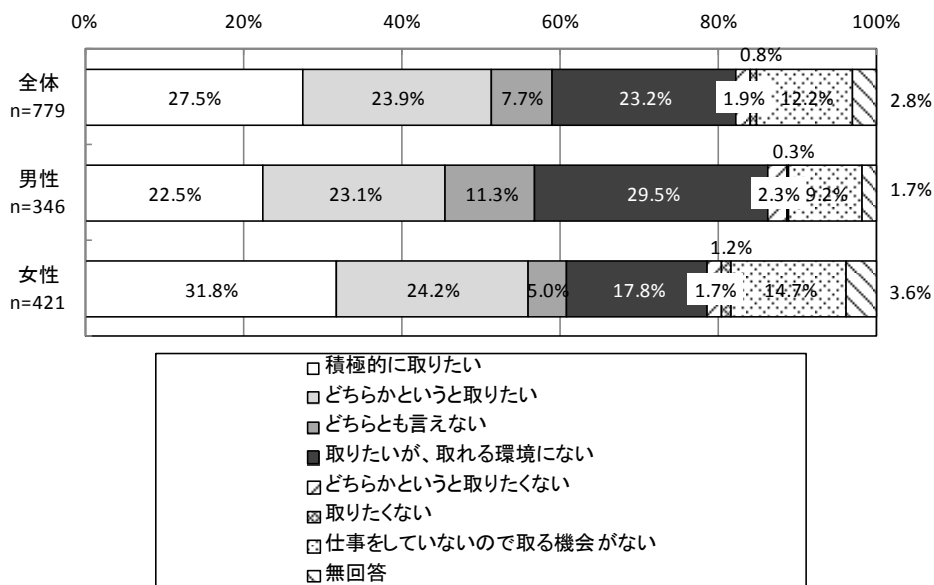


育児・介護休業の取得意向は男女ともに高いが、男性は取りたいが取れる環境にないと感じている

「育児・介護休業の取得意向」について、全体では 55.0%と半数を超え高くなっている。これを男女別にみると、「積極的に取りたい」については、男性よりも女性の割合が 12.4 ポイント高く、「取りたいが、取れる環境にない」については、女性よりも男性の割合が 7.1 ポイント高くなっている。

育児・介護休業法が周知され関心や取得意向は高まっているものの、男性においては職場環境という「社会的性別（ジェンダー）」感があり、女性においては育児と継続就業の問題等があることで、「取りたいが、取れる環境にない」が高くなる結果となった。

■前回調査 (H19 調査)

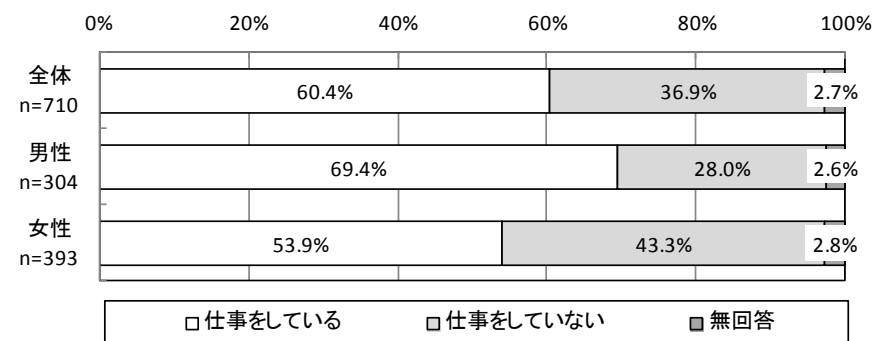


育児・介護休業の取得意向は増加し、取りたいが取れる環境にないと感じている割合も減少

「育児・介護休業の取得意向」について、「積極的に取りたい」と「どちらかという取りたい」の合計割合は、男女ともに、前回調査に比べ今回調査が上回り、「取りたいが、取れる環境にない」については、男女とも減少する結果となった。

(4) 仕事における男女共同参画

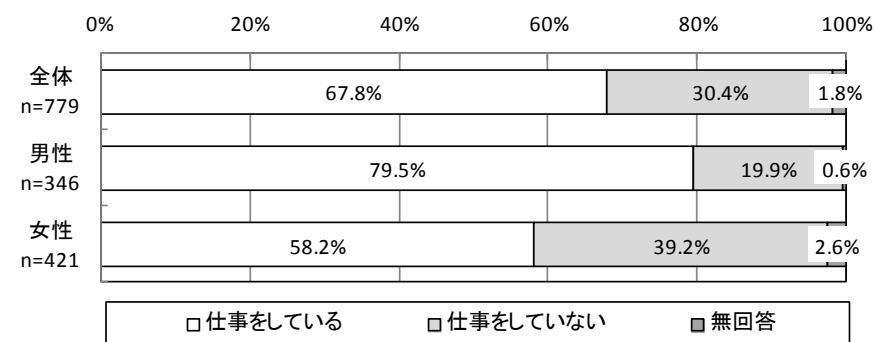
■「仕事への従事」(H23 調査)



仕事に従事している割合は男女ともに過半数を超える

「仕事への従事」について、全体では、従事している割合が約 6 割となっている。これを男女別にみると、男性が 69.4%、女性が 53.9%と女性に比べ男性のほうが高くなっているが、女性の有職率は半数を超え高い。

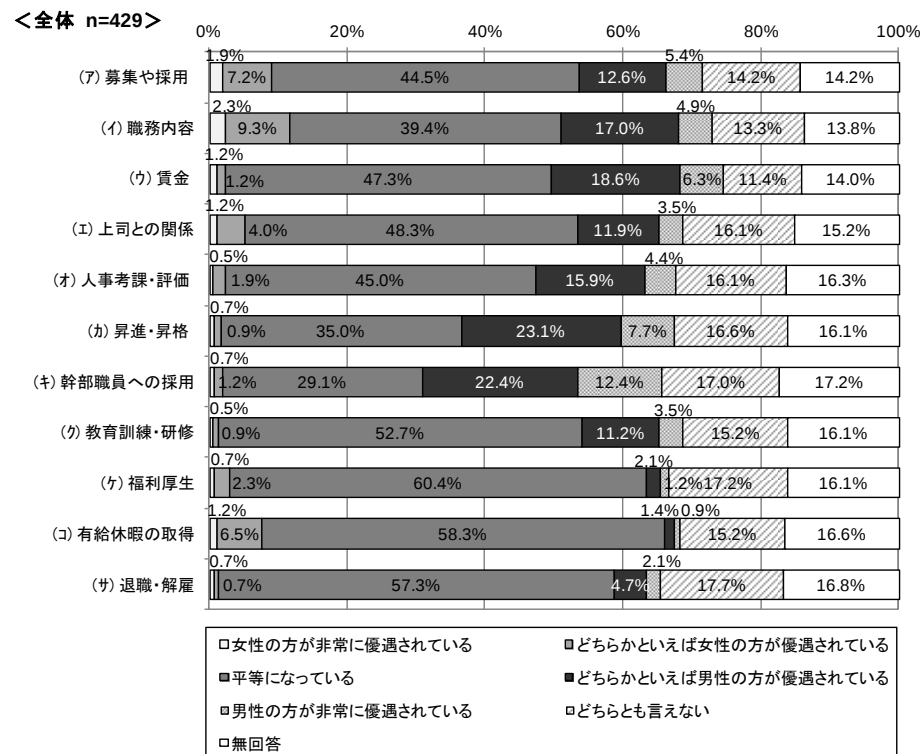
■前回調査 (H19 調査)



仕事に従事している割合は男女ともに減少

「仕事への従事」について、前回調査に比べ今回調査では、仕事に従事している割合が減少している。今回調査では、60 歳以上の回答者の割合が高いことに起因すると考えられる。

■「職場での男女の扱い」(H23 調査)

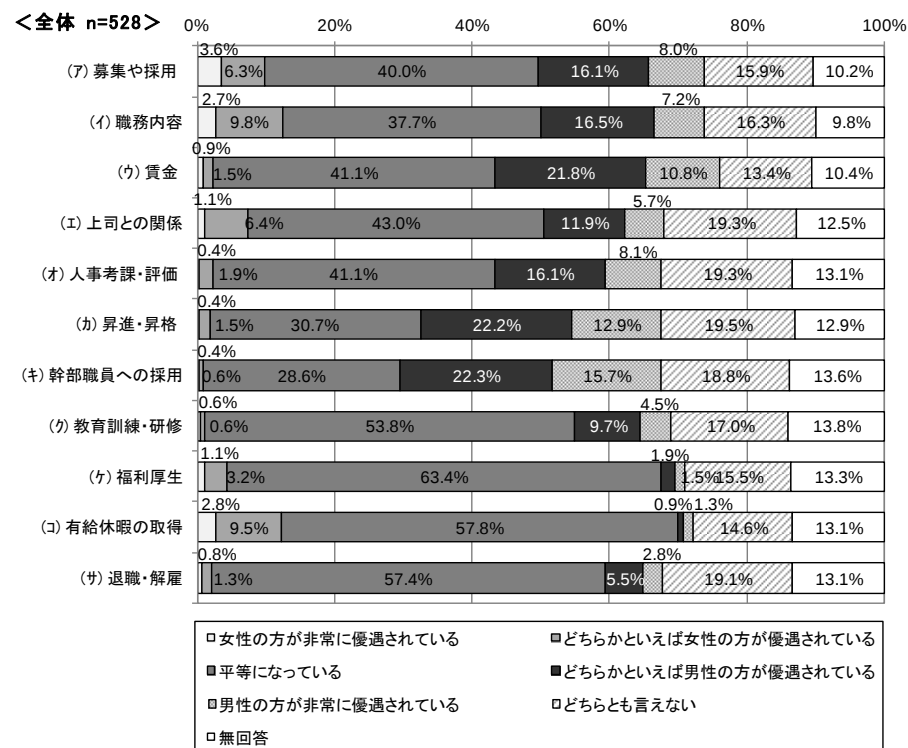


職場では、「幹部職員への採用」「昇進・昇格」において男女の格差が事実上生じている

「職場での男女の扱い」について、「教育訓練・研修」「福利厚生」「有給休暇の取得」「退職・解雇」では平等になっていると感じている割合がいずれも 5 割を超え高くなっている。しかしながら、「幹部職員への採用」「昇進・昇格」については、男性の方が優遇されている割合が高くなっている。

職場においては一部男性優遇の傾向がみられ、女性が企業等において意思決定に参画する機会の拡大が望まれる結果となった。

■ 前回調査（H19 調査）

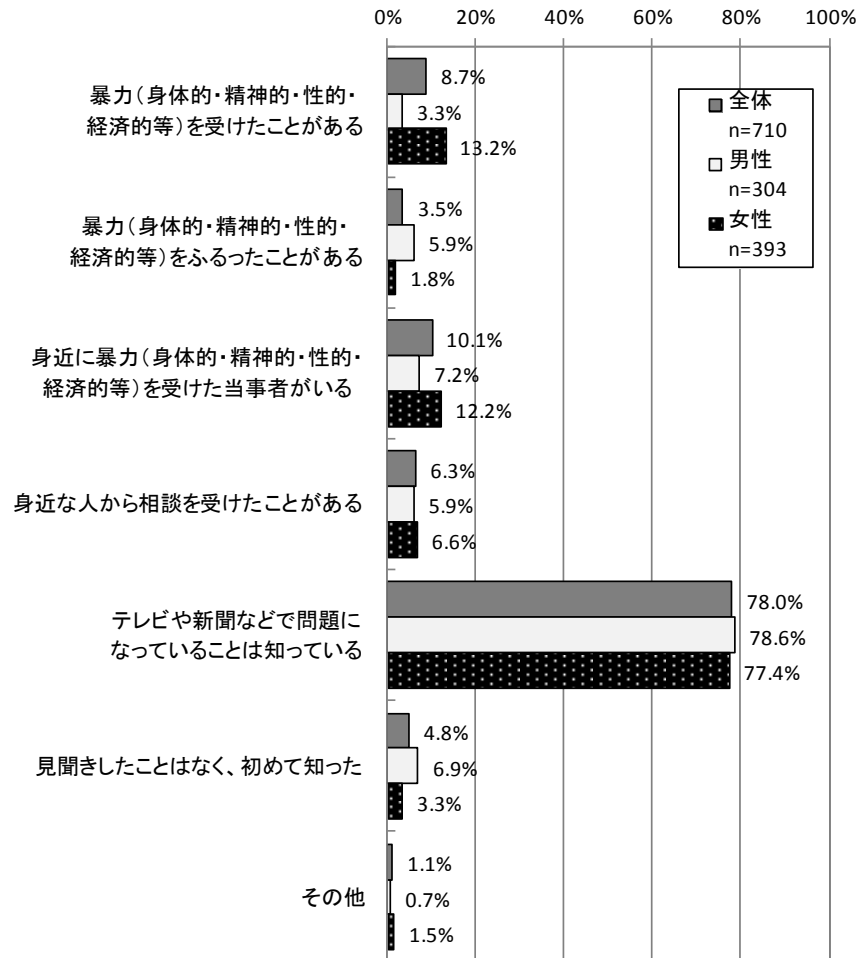


「教育訓練」「福利厚生」以外の項目では、職場における平等感が高まっている

「職場での男女の扱い」について、「退職・解雇」は前回調査及び今回調査において同様の割合となっており、「教育訓練・研修」「福利厚生」以外の項目については、前回調査より今回調査の方が、平等感が高まっている。

(5) 男女とも健康に安心して暮らせる社会

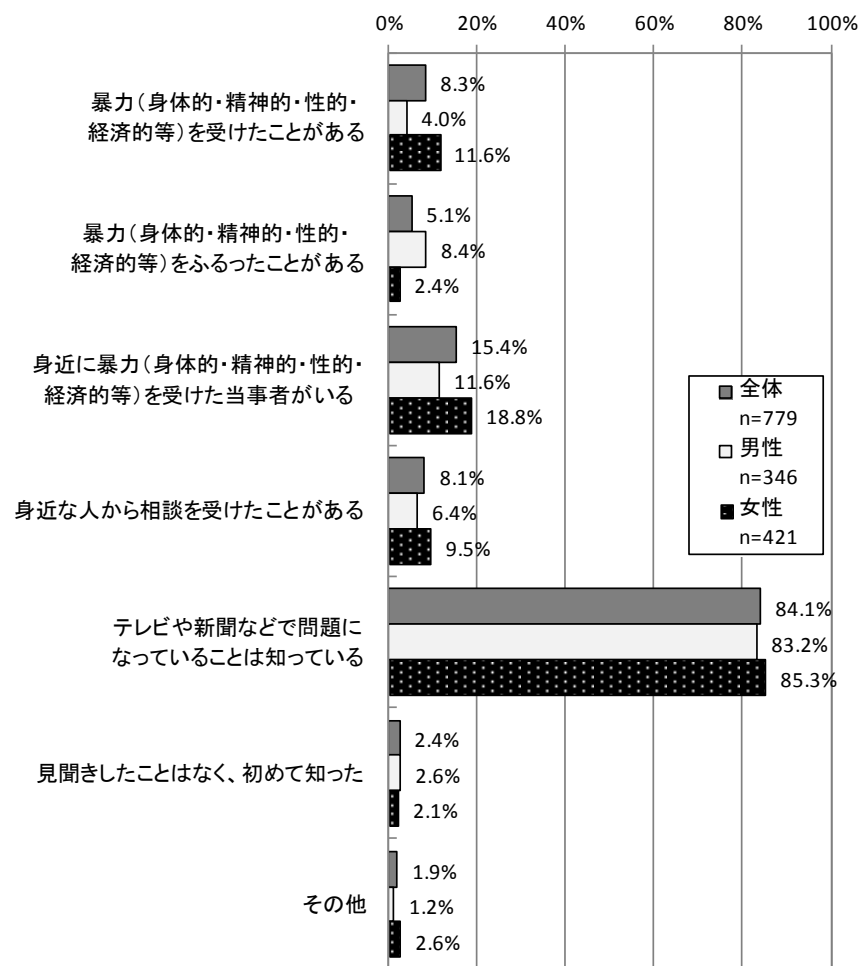
■「ドメスティック・バイオレンスを経験したり、身近で見聞きしたりあるか」(H23 調査)



ドメスティック・バイオレンスの被害にあった回答者は約 1 割となっている。

「ドメスティック・バイオレンスを経験したり、身近で見聞きしたりあるか」の設問について、全体のドメスティック・バイオレンスの被害にあった回答者は 8.7%で、約 1 割となっている。また、女性に占める割合が高く 13.2%となっている。

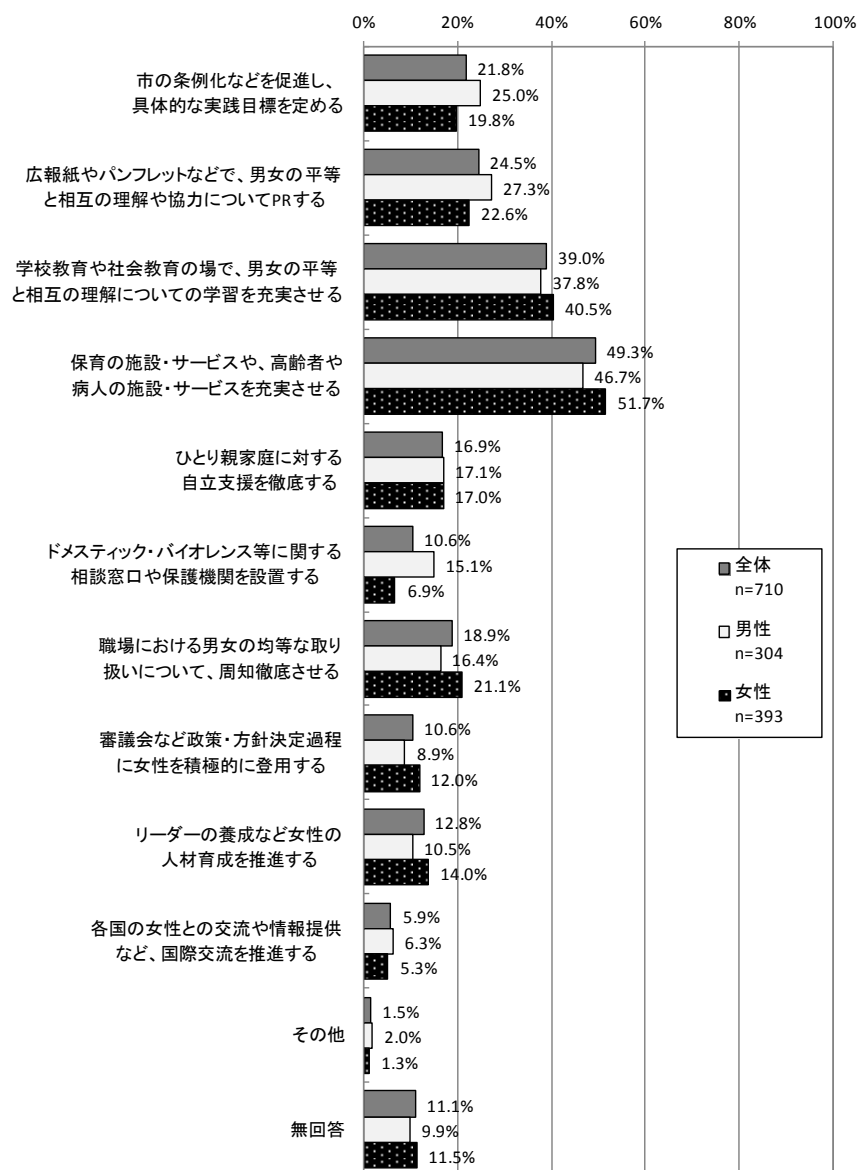
■ 前回調査（H19 調査）



今回調査は前回調査と同様の傾向

「ドメスティック・バイオレンスを経験したり、身近で見聞きしたりあるか」の設問について、前回調査と今回調査では大きな差異はみられない。

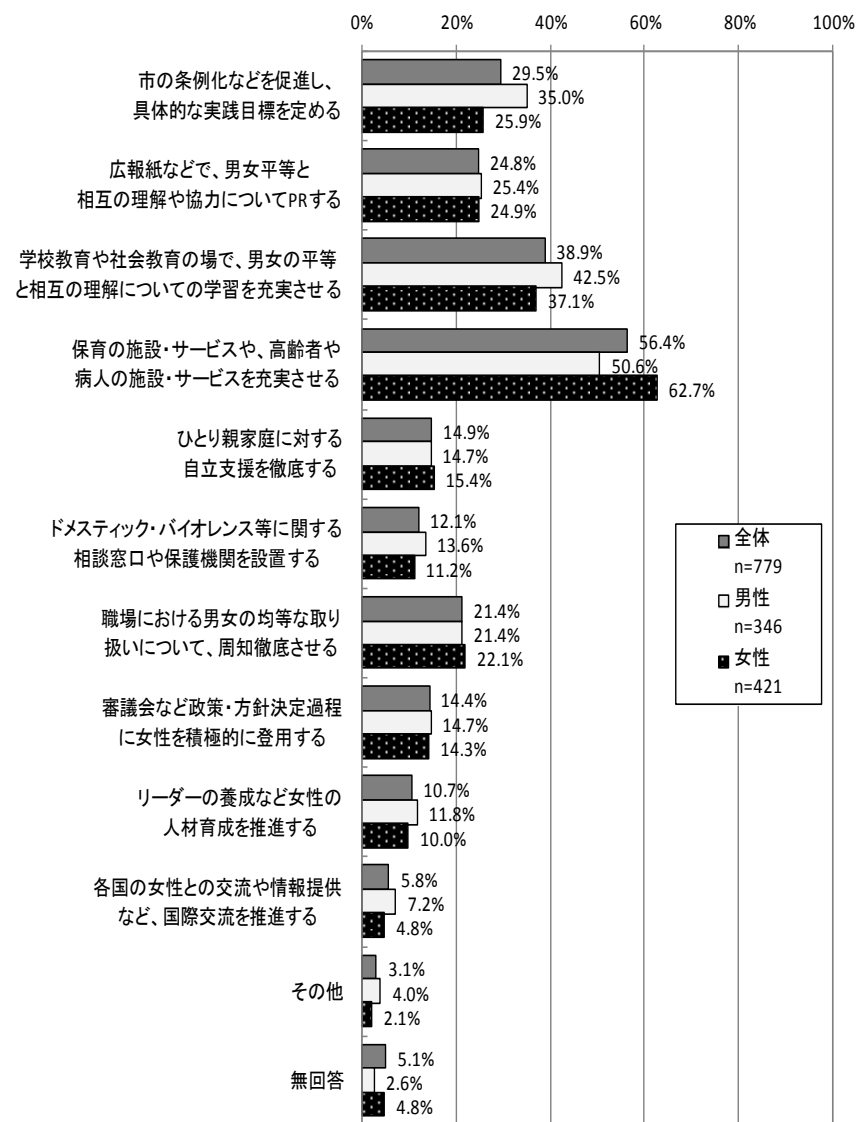
(6) 男女共同参画社会をつくるために市に望むこと



男女共同参画社会をつくるために市に望むことについては、「保育・高齢者・医療関係のサービスの充実」「学校教育・社会教育の場での男女平等に関する学習機会の充実」が求められている。

「男女共同参画社会をつくるために市に望むこと」について、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設・サービスを充実させる」の割合が 49.3%と最も高く、続いて「学校教育や社会教育の場で、男女の平等と相互の理解についての学習を充実させる」が 39.0%、「広報紙やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする」が 24.5%となっている。

■ 前回調査（H19 調査）



今回調査は前回調査とほぼ同様の傾向

「男女共同参画社会をつくるために市に望むこと」について、前回調査と今回調査では大きな差異はみられない。